阿豆佐和氣命神社　稱阿豆加大明神

祭神　阿豆佐和氣命

神位　文德天皇嘉祥三年六月庚戌伊豆國阿豆佐和氣命授二從五位下一仁壽二年十二月丙子加二伊豆國阿豆佐和氣命神從五位上一　今按齊衡元年六月己卯同位階を授ることあるは何れか衍文なるべし故今本文を存して彼を刪る

祭日

社格　（鄕社）

所在　（利島）　利島

今按豆州志式社攷證ともに利島鎭座阿豆加大明神とみえて異說なし攷證に舊社地は南の御神山と云山岳上にて小祠存在す按に今稱の阿豆加は阿豆佐和氣の約と聞ゆるが此神稱の訛り乍らも本稱の儘に唱へ來れるは珍しく貴とぶべきこと也かしと云るもの證とすべし

多祁美加加命神社

祭神　多祁美加加命

今按三宅記に三島神の御子神のことを新島に置玉ふ后を云々此御腹にたいさむの王子とあるは古傳によりて云るものとみゆれば此神は三島神の御子なることを知るべし

神位　光孝天皇仁和二年十一月廿五日庚子授二伊豆國正六位上多祁美加々命神正五位下一

祭日

社格

所在　新島

今按豆州志に吉佐美村に三島明神坐白鬚を配祀す源三位頼政の記あり其略に曰豆州十七番の御神神尾山御倉山の麓多田美河の河上に坐す當鄕朝日里日吉村のうぶすな大明神人皇六代に當て興津彦興津姫と云々この神必式社なるべけれども祠典何の命なるや或曰これ多祁美加々命神社多田美河と語相類して訛誤あるかと云り而るに攷證に新島鎭座大三明神なるべし三宅記に新島に置給ふ后をはみちのくちのみとの大旨とぞ申ける此御腹に王子二人おはします一人をはたいさむの王子とみえ古老の遺說にたいさむ王子は此島の地主神にして島を開きたる神也と云て特に尊信するを思べし今稱のだいさむは多祁美の轉訛にてタケのタキと訛りたるを音便にタイと唱へしを三ど轉じてタイサムと申せるならむも知るべからずと云る據ありて聞ゆれば今之に從ふ

物忌奈命神社　名神大

祭神　物忌奈命　稱定大明神

今按續日本後紀承和七年九月乙未伊豆國言賀茂郡有造島本名上津島此島坐阿波神是三島大社本后也又坐物忌奈乃命即前社御子神也とあるを思ふに物忌奈命は三島大社の本后にます阿波咩命の御子神とみえたり式社攷證に古き上梁文に長濱大明神奉甲御神者當鎭守神集島定大明神御母神也とあるにても明かなるも思ふべし

神位　仁明天皇承和七年十月丙辰奉授二伊豆國無位物忌奈乃命從五位下一以二伊豆國造島靈驗一也文德天皇嘉祥三年十月壬子伊豆國物忌奈乃神授二從五位上一十一月甲戌朔詔以二物忌奈神一列二於官社一仁壽二年十二月丙子加二伊豆國物忌奈命神正五位下一　今按齊衡元年六月己卯同位階を授ることあるは何れか衍文なるべし故今本文を存して彼を刪る

祭日　四月六月十一月並中酉日

社格　縣社

所在　神津島

波夜多麻和氣命神社

祭神　波夜多麻和氣命

祭日　正月廿五日

社格　村社

所在　（賀茂郡稻梓村大字相生）　相玉村字井の林

今按式社考證に相玉村鎭座相玉天神なるべし其は豆州志に云是極めて古祠也正月走馬の神事を爲す金鼓の銘に曰正長二年十月豆州稻梓相玉天神宮とありて神階帳に從四位上おほるの明神と有は此村と聞ゆるが加茂郡に所載從四位上の神は二十一座にて三島大社の三坐と島々二十二坐と合せて四十六坐なれば此大井の明神式内なる事必せるに波夜多麻和氣命より外に當べき神無きて以て疑無ればなりされば相玉の稱呼は即ちハヤタマの轉訛にて亦アイと訛りし也　相玉天神と稱へ亦村名にも負せたる事的然を思ふべし斯て古く大井の稱ありしは今に社邊を井の垣內井の林と唱へ亦荒井ノ田荒井が谷戸荒井溪など云處有を以て知べしと頗る由ありて聞ゆれば姑く之に從へり

伊波例命神社

祭神　伊波例命

祭日

社格　（明細帳に　石室神社とあり祭神伊波例命）

所在　（賀茂郡南崎村長津呂）　長津呂村

今按豆州志本郡長鶴村の條に石廊橫現本村より十三町巳午の方の洲嘴にあり是即州の極南なり祠は山岸より海上に造り出す下臨すれば石岸峭立高數百丈波浪洶涌慄然として足酸す云々とあるによりて式社攷證に伊波例神社賀茂郡長津呂村岩廊神社なるべし嚴巒上に鎭座なるは伊波例の稱に協ひ神階帳に所謂いはら姫の明神此にていはらは伊波例の訛と聞え今稱の石廊又いはらの轉と聞ゆるを以て證すべしと云る其說確實にして伊波例の石廊なる事石廊のいはれ姫明神なるべきこと知るべし故今之に從ふ